事例４　難聴・言語障害通級指導教室における側音化構音のある児童の指導事例

○学年　難聴・言語障害通級指導教室（３年）
○指導内容及び指導の形態　自立活動
○事例のポイント
①スモールステップが目に見える評価を工夫する。
②見通しをもたせたり、振り返りをしたりする学習活動を重視する。
③やる気を引き出す指導を工夫する。
④ＩＣＴ端末の動画撮影機能を活用する。

１　主題名　「シの音を正しく発音しよう」

２　主題設定の理由

本児童は第２学年から週に１回 45 分間の通級による指導を受け、現在第３学年である。言葉の状態は、サ行音ザ行音の歪みと、イ列音（キ、ギ、チ、リとその拗音）の側音化構音である。側音化構音の改善には長期間の学習が必要となるケースが多い。「シ」の学習の土台として、「イ」や舌出しの「イ」（音としては「エ」のように聞こえる）を舌を動かさずに言うことができることが大切である。次に、既習のサ行音「サ、ス、セ、ソ」の/ｓ/の音と「シ」の/ɕ/の音を比較し、音を出す位置と舌の形が少し違うということに気付かせ、「シ」で摩擦を作っている位置や音の違いを意識させる。単音、単音節、無意味音節、単語、短文、文章、会話の順にスモールステップで学習を設定する。

本主題では、児童が学習の見通しをもち、できる喜びや達成感を感じながら学習できるように、４つの手だてで指導をする。

児童が「どのようにすればよい発音ができるか」という自らの課題に無理なく取り組めるように、スモールステップが目に見えるような工夫する。目標や指導の方針は分かりやすく伝え、学習課題を細分化して指導時間ごとに提示し、自己評価をしやすいようにする。

見通しをもたせたり、振り返りをしたりする学習活動を重視する。授業の冒頭に、宿題にした前時の学習内容の定着度を確認して、改善点があれば、本時の課題とともに児童に自覚させる。既習事項を意識しながら練習し、授業の最後には、学習した内容を振り返る機会を設ける。よい発音をするためのポイントを児童自身の言葉でまとめ、次の家庭練習や次時の学習に生かせるようにする。

児童のやる気を引き出すために、「苦手なことの練習に向き合っている」という努力を認め、どんな小さな変化でも、できるようになったことを見つけて自信をもたせていく。また、家庭での練習を支え、毎回の送迎を頑張っている保護者にも、感謝や労いの言葉を伝えるようにする。児童がよい発音ができたときや、誤り音に自分で気付いて言い直しができたときには、大いに賞賛して意識付けをする。単調な反復練習にならないように、ゲーム的要素を取り入れて楽しみながら行えるようにするなど、指導方法や教材教具を創意工夫する。

自分の構音操作や発音を視覚的、聴覚的に振り返ることができるよう、ＩＣＴ端末で動画を撮影する。児童が発音しながら振り返るよりも、動画を落ち着いて見直すことができるので理解が深まると考える。よい点や改善点については、舌の脱力や、風の強さなどの観点を与えて注目させ、「どうすればさらによくなりそうか」を自分でも考えるように促す。

３　児童の実態

・舌と口唇周りの脱力を維持したままで（舌をやや出した状態）、サ行音「サ、ス、セ、ソ」を短文の中でよい音で出すことができる。
・「イ」や舌出しの「イ」は舌を安定させて言うことができる。
・舌出しのシ音は舌の力を抜いて、呼気を正中から出すことはできるが、風（「シ」の/ɕ/の音）を強く出し過ぎたり、「スイ」「スエ」に近い発音になったり、舌出しの構えをスムーズに作ることができず、風が長くなったりすることがある。
・誤り音に自分で気付いて、言い直すことが増えてきた。

４　目標

⑴　シ音の構音方法がわかり、正しく発音することができる。

〈５身体の動き　⑸作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること〉

⑵　自分の構音操作や発音の正誤を振り返り、正しく直すことができる。

〈６コミュニケーション　⑵言語の受容と表出に関すること〉

⑶　日常的に正しい発音で話そうという意識をもつことができる。

〈２心理的な安定　⑶障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること〉

特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項⑺⑿⒂⒄

５　指導計画

	授業目標	授業時数
1	・舌出しの「シ」をつくることができる。（単音節の練習）	4
2	・前後にほかの音をつけてもよい音を出すことができる。（無意味音節の練習） ①後に母音　②前に母音　③前後に母音 ・Ｔの出す舌出しの「シ」の正誤を弁別できる。	3
3	・単語の中で舌出しの「シ」をよい音で出すことができる。（単語の練習） ①語頭　②語尾　③語中	4 本時
4	・２～３語文の中で舌出しの「シ」をよい音で出すことができる。（短文の練習） ・自分の出す舌出しの「シ」の正誤を弁別できる ※次の練習音「ズ」の学習を始める。	4
5	・教科書の復唱や音読、歌や系列語の中で「シ」を正しく出すことができる。 ・舌を通常の位置に戻すことができる。	3
6	・会話の中で「シ」を正しく出すことができる。 ・自分の誤り音を言い直すことができる。	2

６　本時の構成（舌出しの「シ」の単語練習１回目）

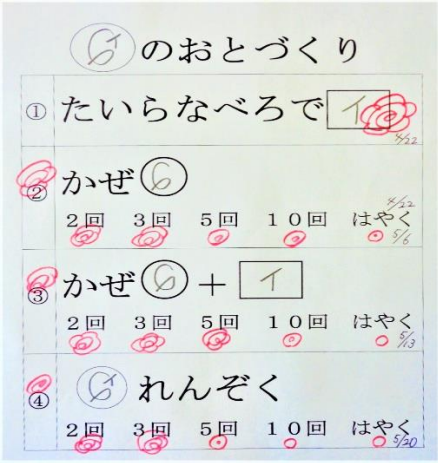
⑴　本時の目標

単語の語頭で舌出しの「シ」をよい音で出すことができる。

〈５身体の動き　⑸作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること〉

⑵　展開

配時	学習活動	指導上の留意点（※指導の手だて　＊評価の観点） ○児童の活動　◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示、発問等	備　考
５分	１　挨拶や自由会話をする。	※和やかな雰囲気をつくり、安心して学習に取り組めるようにする。 ※在籍学級のお便りや連絡ノートの内容を手掛かりにして、家庭や学校のことを話題にする。	お便り 連絡ノート
	２　ウォーミングアップをする。	○口の体操をする。 ※口を大きく開けて発音するように声を掛ける。 ※自信をもたせることができるように易しい内容にする。 ・「ぽかんの口」 ・「たいらべろ」 ・（たいらべろのまま）ア　エ　イ イア　イエ アイ　エイ ○舌出しの「シ」の復習をする。 シ　シシ　～　シシシシシ	口の体操カード ひらがな50音表

５分	３　宿題の確認をしながら、前時の学習を振り返る。 ・「サ、ス、セ、ソ」の短文 ・舌出しの「シ」の無意味音節	○「シ」の練習カードの「無意味音節」にシールを貼る。 ※家庭でも練習してきたことを褒める。  □先週の「まとめ」は「弱い風にすればできる。」でした。そこに気を付けて読みましょう。 ※前時の学習で「まとめ」にしたポイントを意識させ、改善点があれば本時の練習で取り組ませる。	練習カード シール
	４　本時の課題を確認し、活動の見通しをもつ。	めあて：単語の最初にある「シ」をよい音で出そう。 ※学習課題をノートに書き、活動の流れを提示する。 １　宿題確認 ２　めあてと今日の作戦 ３　「シ」の単語練習 ４　まとめのゲーム ５　ふりかえり ６　次の宿題確認	ノート 活動の流れ
		□「シ」のつく単語はどんな作戦でやりますか。 ※前時の学習ノートを見ながら、抵抗感なく作戦を考えられるようにする。 ※構音操作のよい例と悪い例を教師がやって見せて、比較して考えられるようにする。 ◎「弱い風作戦パート２」	

事例のポイント①
　スモールステップのどの段階の練習をするのかを把握できるようにする。

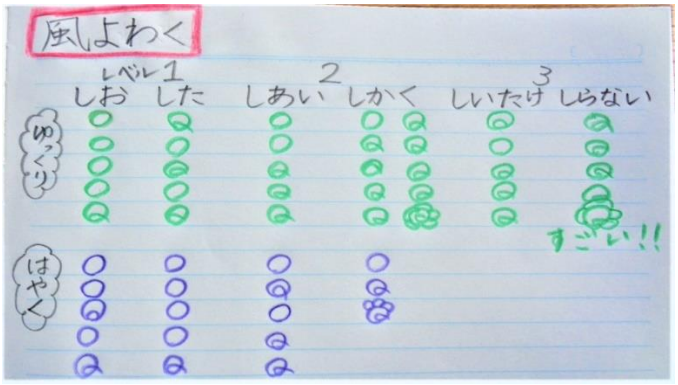
事例のポイント①
　上達していることが見てわかるようにノートに貼って記録する。

事例のポイント②
　前時の学習や宿題の改善点を想起させ、本時の練習でとくに意識するポイントを考えさせる。

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>
□ベロを横に同じくらい広げるイメージです。</td>
<td>口内模型</td>
</tr>
<tr>
<td>25 分</td>
<td>5　単語の中で舌出しの「シ」を練習する。(語頭)

事例のポイント①
「できた（よくできた)」ことが見てわかるようにノートに記録する。</td>
<td>※２音節、３音節…と増やしたり速度を上げたりして、徐々に難易度を上げる。
※うまくできないときは、難易度の低い練習に戻る。
※児童が誤り音に気付けないときは、教師がよい音と誤り音を聞かせて〇×クイズをし、弁別力をつける。
※発音するごとに評価を伝える。

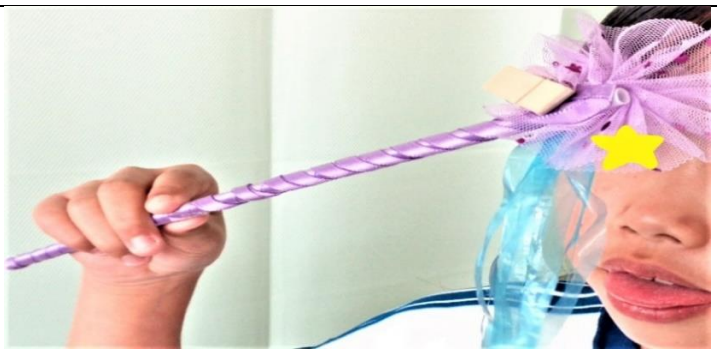
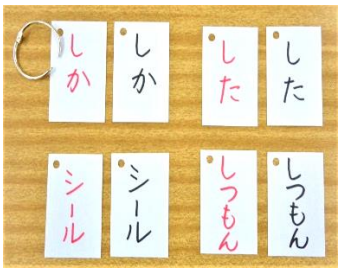
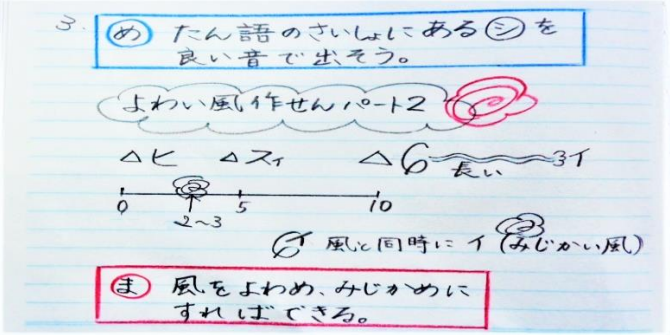
＜□言葉かけの例＞
・できましたね。
・今の音がよいですね。
・今出した音を覚えてください。
・こういう音ですよ。（Tがよい音を出す。）
・今の風の強さがちょうどよいですね。
・もう一度「たいらべろ」作りましょう。
・風の長さを今の半分にできますか。
・風と同時に「イ」という感じです。

□今の音、よかったですね。風はいつもが 10 だとしたらどれくらいでやりましたか？

※児童の感覚に合う表現で構音操作のポイントを言語化させて理解を深めさせる。
※風になびく小道具で、「どのくらいの強さかよいのか」が見えるようにする。
※口内模型を操作させて説明させることもよい。

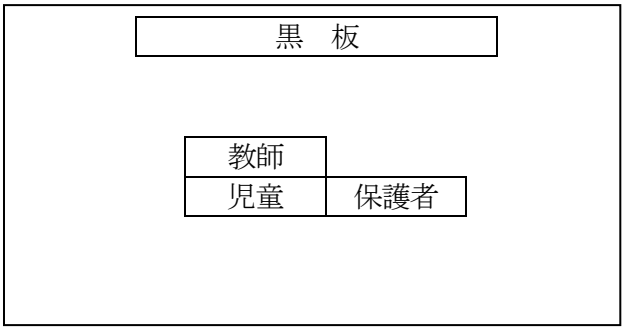
＊単語の語頭にある舌出しの「シ」をよい音で出すことができる。</td>
<td>吹き流し</td>
</tr>
</table>

	6　自分の構音操作や発音を振り返る。 事例のポイント④ ＩＣＴ端末の動画撮影機能を活用して客観的に振り返らせる。	 吹き流し（ティッシュペーパーやポリエチレンテープ） ※よい点や改善点を伝え注目させる。その際、既習事項や本時の練習ポイントを意識させ、「どうすればよい音が出せるのか」を考えるように促す。 	ＩＣＴ端末
５分	7　課題の応用練習をする。 事例のポイント③ 対戦型のゲーム形式にして楽しみながらたくさん練習させる。	○語頭に「シ」のつく単語カードで神経衰弱をする。 ※遊びの中で条件を付けて練習を組み込む。 例：Ｃがペアにできたら自分で２回読む。Ｔがペアにしたらｃが４回読む。  	単語カード
５分	8　本時の学習を振り返りまとめをする。 事例のポイント② 意識したポイントや気付いたこと、できるようになったことを児童の言葉でまとめさせる。	□単語の最初につく「シ」は何に気を付ければよい音で言えましたか？ ◎「風を弱め、短めにすればできる。」 ※Ｔがノートに記入し、次時の学習に生かせるようにする。よかった点や頑張った点も伝え、記入する。  	

	9　宿題の確認をする。 ・「ス、サ、セ、ソ」短文 ・「シ」単語（語頭） 10　次時の確認をする。	○宿題にする単語カードを自分で選ぶ。（10～20 枚） ※やり直しが多かった単語は宿題に入れるように助言する。 ※「まとめ」で確認したことを、家庭練習でも意識するように伝える。 ※次時も「シ」が語頭につく単語を学習することを伝え、見通しをもたせる。	

7　本時の評価

単語の語頭で舌出しの「シ」をよい音で出すことができる。

8　備考

・教室環境図